# 第５回 南部地区街づくり協議会 議事録（要旨）

１．開会あいさつ（並河市長）

奈良を巡るルートは多くがゴールを天理・天理東インターにしており、両者とも観光客は天理を通っているが、立ち寄りスポットになっていないのが現状。名所・旧跡等については、スポットに加えてどのような魅力があるか、どんなものが売っているかが紹介されている所が強い。

東京の雑誌社の雑誌に、天理のことを数回に分けてご紹介していただけることが決まった。天理駅前のことのだけでなく市内全般に取り上げていただけるようにお願いしたい。南部地区では、関西テレビに福知堂町のお麩カフェを取り上げていただいたところ。うまく発信していければいいものがたくさんある。

２．事務局連絡（委員代理者紹介、途中退席者報告、前回協議会議事録の確認）

３．議　事

【以下、委員の発言要旨】

（１）南部地区産品リスト及び物産高付加価値化について

・特産みやげもの創出フロー及び南部地区産品リストについて、資料 1、2 ページにより事務局から説明を行った。

・南部地区として名称を付けてブランド化し、協議会で認定した産品については認定シールを添付する案について委員より提案あり。

→柳本では完熟トマトの産地直送をされている農家もあるが、その他、ナスや大和芋も同じように消費者に届けられないか。また、ストーリー性を付けることで付加価値を高められるのでは。（松下幸之助と味間芋の事例）

→高付加価値化モデル事業または現在検討しているふるさと納税の産品の中に含めることも検討できる。

・飛鳥ブランドは、商工会で農・商工連携として認定基準を設け、それを満たす産品に認定ロゴマークを付けて販売するというもの。

・実際にあるものを統一的に発信していくという点と、方向付けすることで事業者の意識の向上を図る点がブランド化の利点。

・ブランド化には質の保証が裏にある。第 1 次産品だけではなく加工品も含めて質の保証という観点を大事にしながら、高付加価値化としてのストーリー性や、インパクトを与える外観も検討する必要がある。

・ブランドのネーミングについては響きの良さ、イメージを重視して検討すべき。

・南部地区だけではなく他も含めた“オール天理”で検討する必要があるのでは。

・ブランド化して産品の認定を進めれば、（消費者側からは）どのような産品があるのか探すという楽しみも出てくる。

・朝和校区では麩と蚊帳生地の布巾が産品リストに挙がっているが、少し工夫すれば劇的なＰＲにつながることもあるので、事業者も交えて意見交換ができれば良い。
・飛鳥ブランドで加工品が多いのは、やはり日持ちの問題が大きいのでは。農産物については旬があり、加工品についても旬で分けていくことが必要ではないか。
・まずは他の商品をけん引してくれるような産品を創出し、目玉を作っていかなければならない。
・食べ物関係であればこういった専門家の方と組んでいくのも良いかと思うし、先ほどご紹介いただいた蚊帳生地等であれば、デザインの専門家と組む方向もある。
・ブランドをけん引していくような商品を各協議会で作ること、商工会と相談しながら基準を作り認定していくブランド化、出来上がった商品の販路が一連の流れ。
・柿えくぼ、柿しょこら等については先日東京にＰＲに行った際には非常に好評であったが、“天理”の物ということが現状では見えてこないのがもったいない。
・最近の消費者は非常に口が肥えていて、特に女性は「おいしい」と聞けば遠いところへでもわざわざ出かけていく。やはり中身のおいしさによるロコミは非常に大事。認定してブランド化することも必要だが、一番大事なのは食べ物であれば“おいしさ”であると思う。誰もが美味しいと思えるような商品ができれば、大きな宣伝をしなくてもロコミでその良さが広がっていくのでは。
・シェフや専門家の方に知見を伺うことについては、まずは地元である程度の商品の形を作っていき、最終段階でアドバイスを頂くという方が良いのでは。
・様々なご意見があると思うので十分議論したいと考えるが、やはり意見交換をするだけでも違った視点が見えてくる。
・農産物の生産は多く、伝統野菜等もあるが栽培面積が非常に少ないものもある。そういった把握も必要ではないか。
・県内のある市町村では、名産品に認定シールを貼ってブランド化を行っているが、認定基準があまり高くなく、同じような商品やレベルもバラバラで全体のイメージ低下につながっているような事例もある。認定基準をしっかり作って、量の確保や質について一定のルールを決めて取り組むことが重要だと思う。
・飛鳥の基準をそのまま天理にあてはめると合わない部分も多いと思うので、まずは事務局で他で取り組みされているところの基準等を調べ、推進委員の方々と相談をさせていただいたうえで次回の協議会にお示ししたい。

（２）周遊観光拠点整備プロジェクトについて
・資料に示しているとおり、先日、奈良県と山の辺の道周辺市等の団体で山の辺の道の一体的な情報発信やルート設定を検討する協議会が発足した。
・トレイルセンターについては山の辺の道の奈良～桜井間では中間にある整備された施設なので、こちらも良い位置づけをしていただきたいと考えている。
・資料９ページに基づき、トレイルセンターの整備方針（案）について説明。
・靴を脱いで一段上がるスペースについては、わざわざ靴を脱いで上がってもらう方

が良いのかどうかという思いがある。
・靴を脱ぐということはストレッチやのんびりしたい方向きでは。
・外の軒下の物販については、左側の壁際の方が目につきやすいのでは。
・推進委員と事務局でミニミーティングを開かせていただき一度協議をしたいと思う。歩き、自転車、また最近、朝和校区の方中心に行っていただいているノルディックウォークについて推進できる拠点として発信できないかと考えている。
・前回にも協議した長柄駅前のスペースについては、校区ウォークの際にもうまく活用していただいており、一定の周期でマルシェのような催しができないかと考えている。地元の行事とも連動する形で校区の皆様に楽しんでいただけるところから始められれば良いのでは。
・トレイルセンターの活用について、建物の北側の樹木が茂っていて南から来る人は気付かずに通り過ぎてしまうことがある。また、建物内からの借景は思いのほか素晴らしいが、向かいの宅地に建物が建つと台無しになってしまう。
・内部での物販について管理事務所の方が販売の管理もするのであれば、継続性を確保する上でも物販の場所を事務所と離さない方が良いのではないか。

（３）既存施設を活かした道の駅プロジェクトについて
・推進委員より提案あり。（(仮称）まほろば美し（うるはし）ステーション）
→奈良県の観光客の移動手段の 55%は車。南部地区においても多くは車移動。
→天理 IC から中南和地域へのゲートウェイにあたるのが柳本･朝和地区であるが、駐車スペース・休憩機能に乏しく、現状は地区への目的がなく通過地化。
→道の駅の特徴として、歴史的な文化遺産が多く存在し、自然豊かで農産物の恵みもたくさんあり、農村の風景は日本の原風景としてピカイチである。
→想定される効果は、県内に少ない観光文化拠点としての機能、高齢化や地域の元気と賑わいの創出。また、多くの方に日本の歴史・文化の源流を体験していただき、地元の方にも便利に利用してもらうことが期待される。
→構想を具体的にするには、様々な課題解決を計画的に進めなければならない、土地の現況や周辺環境、交通量等の調査に取り掛かかっていく必要がある。
→今は既存の施設に焦点が当たっているが、地域の中で再度適地がないか、実現可能性のある箇所を探る方が良いのではという思いもある。
・道の駅に関しては、既存のモデルハウスをご紹介いただき実際に中を見せていただいたが、規模も大きく、関心を持っていただける事業者を探しているところ。市として、民間の事業者の方ベースか国交省の認める公の運営による道の駅形態を検討するかによっても進め方は変わってくる。公金によりすべてをまかなうのは財政的に厳しいという現状と、ハード整備した後の運営主体についても議論が必要である。生活基盤の向上の観点からもより広い街づくりの構想として継続的に議論を進めていきたい。

（４）空き家・耕作放棄地について

・市としても問題意識はあり対策について検討しているが、現実と制度の間にギャップがあり苦慮している。空き家や耕作放棄地は、見た目はそうでも完全に空いている・放棄されている物件は意外に少なく、一応の管理をしていたり、他人に貸すことの抵抗感など、なかなか次の活用に動き出せないものも多い。

・都会からの需要にマッチしない立地の所も多く、活用が進んでいないのが全国的な現状であると思う。また、何年も空き家になっている物件であれば配管等がダメになっている場合が多く、改修には相当の費用がかかることになる。

・都会から来られた方に農地を貸しても、どのように農業を進めればいいかわからないため、やはり地元の方の手解きを受けながら交流していくという形が良い。

・地元の方にとっても新しい方を受け入れることが負担ではなく、今後の自分のコミュニティを持続していくための試みとして認識していただかなければならない。

・地主に放棄地であるという認識があるかどうかの問題もある。

・地域外の方に借りていただいても、農地付近に車を停めておく場所もなく、利用する水やトイレの問題もある。

・家の近くでも市民農園をされているが、借りられているのは案外同じ町内の方も多い。市外からわざわざ来ていただかなくても需要はあるのでは。

・良い条件の物件が見つかれば、ご意見いただいた駐車場やトイレの問題は協議会としても切り込んでいくべき内容。

・市が把握しようとしても耕作放棄地として挙がってこない農地については、地元の方の本音のご協力があってこそ前に進められる。

・委員の皆様の地域で活用させていただける条件の良い物件を是非検討・紹介頂きたい。良い例・成功例を何とか一件でも示せば流れは変わってくる。

・土地の利用に関して規制が多すぎる。農業的な条件が非常に厳しい農地については、ある程度の規制緩和をし別の利用を検討してもらうことも一つの方法では。

４．本日のまとめ

議事において、産品についてある程度方向性を確認させていただいた。今後は推進委員の皆様と詰めたうえで次回の協議会に投げさせていただきたい。また、拠点整備については、特にトレイルセンターと長柄駅についてしっかり詰めていけるかと思う。道の駅については進展があれば協議会で報告させていただく。最後の耕作放棄地・空き家に関しては、１件でも良いので条件の良い物件を見つけていただき、成功事例を示すことを目指したいと思う。

５．次回の日程と主な協議内容

次回第６回協議会は２月上旬に予定し、後日、日程調整を行う。

６　閉　会　－16：00－